

★吉野ヶ里町地球温暖化対策実行計画の実績報告(2021年度)について

2017年度に策定した「吉野ヶ里町地球温暖化対策実行計画(事務事業編)」で、吉野ヶ里町の管理する施設では、2022年度までに温室効果ガス排出量の『22%以上削減』(2013年度実績値を基準)、2030年度までに『40%以上削減』(2013年度実績値を基準)を目標として掲げ、省エネルギーに取り組んでいます。

年度	2013年度 (基準年度)	2022年度 (中間目標年度)	2030年度 (最終目標年度)
温室効果ガス総排出量 (t - CO ₂)	4,480.6	3,472.0	2,688.0

2021年度の温室効果ガス総排出量は2,955.6トン(t - CO₂)でした。

○温室効果ガスの総排出量

- ・総排出量は、基準年度(2013年度)比で1,525トン減少しました。
- ・基準年度(2013年度)からの増減比率は34.0%減となりました。

年度	基準年度 (2013)	2017	2018	2019	2020	2021	
温室効果ガス総排出量 (t - CO ₂)	4,480.6	3,596.6	2,832.6	2,779.6	2,748.6	2,955.6	
基準年度 (2013年度) との比較	排出量 (t - CO ₂)	—	▲884.0	▲1,648.0	▲1,701.0	▲1,732.0	▲1,525.0
	増減率 (%)	—	▲19.7	▲36.8	▲38.0	▲38.7	▲34.0

○エネルギー別排出量の比較

発生区分	2013年度(基準年度) 排出量(t - CO ₂)	2021年度 排出量(t - CO ₂)	対基準年度増減比率
二酸化炭素(CO ₂)	4,373.0	2,828.0	▲35.3%
メタン(CH ₄)	33.0	40.0	21.2%
一酸化二窒素(N ₂ O)	74.0	87.0	17.6%
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	0.6	0.6	0%
合計	4,480.6	2,955.6	▲34.0%

○二酸化炭素排出量の減少理由

電気使用量に関して基準年度(2013年度)と比較すると、電気使用量【参考1】は減少し、加えて電気事業者の二酸化炭素排出係数【参考2】が低下したことにより、排出量が大きく減少しています。前年度からの増加要因としては、文化体育館の供用開始のほか、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により休館となっていた公共施設が再開したことによる電気等の使用量が増加したことなどが考えられます。

【参考1】電気使用量(吉野ヶ里町庁舎及び関係施設)

年度	基準年度(2013年度)	2021年度
使用量(kWh)	5,448,734	4,942,435

【参考2】電気事業者(九州電力)の二酸化炭素排出係数

年度	基準年度(2013年度)	2021年度
排出係数(t - CO ₂ / kWh)	0.613	0.365